

令和6年度

運営に関する計画

大阪市立成育小学校

令和7年2月

大阪市立成育小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、これまで全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査では安定して正答率が全国平均や大阪市平均を概ね上回る結果となっている。その一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査では全国・市の平均値を下回っている項目が多い。体力向上のために運動の機会をどう保証していくかが大きな課題となっている。また、健康な身体をつくるためには、食育による食べることや食事についての意識付けが欠かせない。

児童アンケートの「学校では楽しく過ごせていますか」の項目では肯定的な回答が90%を超えている。しかし、家庭環境等の様々な要因で不登校傾向になっている児童を減らすこと、いじめの未然防止や認知されたいじめを確実に解消していくことについては引き続き重点的な取組が必要である。

学校のきまりを守ることにに対する規範意識は高く、児童・保護者アンケートの肯定的回答も90%を超えている。あいさつについても児童・保護者ともに肯定的回答は85%を超えているが、「自分から進んで」「場に応じて」「気持ちのこもった」という点では課題が感じられる。

- ・ 全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査等を指標とし、現状を維持するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を重視し、言語活動の充実に取り組む。
- ・ いじめの件数を増やさないことや解消した割合を高くするために、心の教育やよりよい集団づくりを推進していく。
- ・ 体力の向上については、十分な運動スペースが確保しにくい中で、運動することの楽しさを味わい、運動の機会が増えるように工夫する。
- ・ 栄養のバランスを考え、しっかり食べることとともに、食事のマナーについての指導を行い、食育についての関心を高める。
- ・ 地域・保護者と連携を取り、校外・校内での安全教育に取り組む。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度の調査より増加させる。
- ・ 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和3年度末より減少させる。
- ・ 令和7年度末の児童・保護者によるアンケートにおいて、あいさつについての設問での肯定的な回答を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より増加させる

- ・ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 3 年度より向上させる。
- ・ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和 3 年度より上昇させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ I C T の活用に関する目標を設定する。
学習者用端末を活用した学習を行う時間を令和 4 年度末より増加させる。
- ・ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
令和 7 年度に年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を令和 3 年度より増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%（昨年度 85%）以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・ 道徳教育や情操教育の機会をとらえ、心豊かな子どもの集団づくりに取り組むとともに児童理解に努める。早期発見ときめ細かな指導を行い、いじめを解消した割合を 90%（昨年度 90%）以上にする。
- ・ あいさつについての校内調査において肯定的な回答 90%を維持する。（昨年度 90%）。
- ・ 防災教育を通して防災意識を高め、校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を 75%（昨年度 75%）以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 45%（昨年度 40%）以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%（昨年度 66%）以上にする。

学校園の年度目標

- ・ 春の体力テストと秋の体力テストの記録を比較し、「20mシャトルラン」の平均の記録を2ポイント以上向上させる。
- ・ 残食量を前年度平均より減らすとともに、校内アンケートにおいて「給食を残さず食べている」に肯定的に回答する児童を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%（昨年度70%）以上にする。

学校園の年度目標

- ・ 校内アンケートにおける「ICTを活用した学習は好きですか」という質問に対し、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。
- ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」については、学校生活全般を通して、人とのつながりを大切にし、心豊かな子どもの集団づくりに取組んだ。年に一度の「いじめについて考える日」、学期に一度のいじめ未然防止についての取組、月に一度の「なかまについて考える日」が、児童・保護者にも定着している。同時に児童理解、いじめの早期発見・早期対応に努めており、いじめ解消の割合はほぼ100%であった。あいさつについては、代表委員会のあいさつ運動や毎朝の登校指導等の結果、肯定的な回答が88%であった。また、交通安全指導や不審者対応、避難訓練等の取組を通して、防犯・防災意識が高まり、自分の身の安全を守ることに對する肯定的な回答は97%であった。一方、本校の課題である不登校傾向にある児童への対応は、今後も継続した取組が必要といえる。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」については、学力では、継続して「効果的な対話の在り方」を重視して校内研究に取組んだ。その結果、「学級の友達との間で話し合う活動」を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をした児童の割合は62%で、前年度の43%よりもかなり増えた。話し合い活動を通して、「話す力」とともに「聴いて考える力」がついた児童が増えた。また、体力の向上にも重点的に取り組み、特に、本校児童の「走力・持久力」向上を目指し、体育科でラダーやタグ、とび縄を使った学習を取り入れ、走力と持久力の向上に努めた。しかし、校舎改築工事で運動場が狭くなり、運動する機会が少なくなった影響があったのか、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は全国平均と比較すると低い数値となった。今後3年間は運動できる場所が制限されるため、現在の環境でできることを考え、児童の体力が低下しないように、効果的な改善策を検討していく。また、給食の残食量については、栄養職員の食育指導、給食委員会の給食週間等の取組を行ったため減少したが、「給食を残さず食べている」に對する肯定的な回答は85%で、90%にはわずかに届かなかった。今後も個別対応を中心に継続的に取り組んでいく。

「学びを支える教育環境の充実」については、校内 ICT 活用研修を充実させたり、ICT 支援員を効果的に活用したりした。その結果、「ICT を活用した学習は好きですか」に対して肯定的に回答した児童の割合は昨年度とほぼ同じで 90%であった。また、ノー残業デーの月 1 回の設定に加え、夏休みや冬休みの長期休業期間に学校閉庁日を設けることで、教職員が年次有給休暇を年間 10 日以上取得した割合は 90%を超えた。今後も働き方改革の視点からさらに改善していく。

次年度も、各項目で取組内容を工夫しながら、年度目標を達成できるようにしていく。

(様式2)

大阪市立成育小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育や情操教育の機会をとらえ、心豊かな子どもの集団づくりに取り組むとともに児童理解に努める。早期発見ときめ細かな指導を行い、いじめを解消した割合を90%(昨年度90%)以上にする。 あいさつについての校内調査において肯定的な回答90%を維持する。 防災教育を通して防災意識を高め、校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を75%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校児童の登校支援に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 特別委員会を設置し、不登校傾向の見られる児童への早期対応を組織的に行う。また、不登校の児童の個人カルテを作成し、状況の把握を学校全体でできるようにする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>心豊かな子どもの集団づくりと児童理解に努める。</p> <hr/> <p>指標 道徳教育や情操教育、より健全な集団づくり(学級集団・異学年交流)に取り組む、他者とのつながりを大切にして、認め合うことができるようにする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>地域と連携し、安全教育に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 地域の見守り活動や、校内の防災・減災・安全教育に取り組む、安全に対する意識の向上を図る。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 心の天気やミマモルメを活用し、欠席・遅刻・行きしぶりの児童について情報を共有した。年度当初の不登校対応の共通事項とした「月ごとに3日以上欠席」という数値だけでなく、気になる児童の学習や休み時間の様子をチーム（不登校対策委員会）のメンバーで確認した。</p> <p>また、学期ごとに特別委員会を開き、不登校児童について、組織的話し合いを実施した。月に2回、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと児童の情報を共有し、児童の実態に合った外部機関（家庭教師のトライ、医療機関、放課後データービス、フリースクール）等と繋いだ。</p> <p>担任を中心に、別室登校や放課後登校、家庭訪問など、児童の実態に寄り添った。</p> <p>② 道徳科の学習を中心に、様々な活動を通して、他者とのつながりを大切にし、認め合うようになった。今年度は、たてわり班活動で、月1回以上の集会に加え、成育フェスティバルと全校オリエンテーリングを実施し、昨年度より異学年交流をする機会を増やしたことで、異学年の児童同士が自然と声をかけあう姿や積極的に関わる姿が多く見られた。また、卒業を祝う会では、お世話になった6年生に向けて、感謝の気持ちを伝える取組を行い、さらに互いの心の結びつきが深まる活動を行った。</p> <p>あいさつについての校内調査において、肯定的な意見は88%であり、目標の90%を達成できなかった。しかし、児童会によるあいさつ週間や朝の看護当番、学級指導等の取組を続けていけば、達成できると考える。</p> <p>③ レモン隊の見守りや、春と秋の交通安全指導により、登下校時の安全に気をつけようとする意識がついた。校内では、火災、地震・津波、不審者侵入を想定した様々なパターンの訓練を実施したことで、災害はいつどこで起こるかわからないという危機意識をもつことができた。また、教室配置が変わる毎に訓練を行ったり、教員間で避難経路を共通理解したりした。校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合は76%であり、目標の75%以上を達成した。</p>
次年度への改善点
<p>① 不登校対策委員会で話し合ったことを、教職員全員に共通理解させる。</p> <p>個人カルテを昨年度作成し、今年度も継続して記録したが、さらに効果的な資料作りについて模索する。</p> <p>改善策ではないが、来年度も今年度のように、「いじめの理解や対応」「不登校児童への対応」などの研修を企画する。</p> <p>② 来年度は全校オリエンテーリングを実施しないため、それに代わる異学年交流の方法を考える。また、講堂でできる集会やたてわり班での集まりを可能な限り継続して行っていく。</p> <p>③ レモン隊の見守りや交通安全指導、様々な想定での避難訓練は来年度も継続して行う。その中でも、火災を想定した訓練では、建替え工事中のため、校外への避難が必要とされる。避難方法を教員間の共通理解に留めず、実際に避難することができるのかを確認する。また、建替え工事中は、休み時間の運動場の使用が制限されるため、教室であばれたり、走ったりする児童が増えると予想される。代表委員会と連携した安全に関するポスター作成や呼びかけ、生活指導部会で休み時間にトランプ等の使用を検討、提案することが必要である。さらに、児童朝会で安全について呼びかけたり、あばれたり走ったりしている児童へ教職員が個別に指導する。</p>

大阪市立成育小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 45%以上にする。 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。 	B
学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> 春の体力テストと秋の体力テストの記録を比較し、「20mシャトルラン」の平均の記録を 2 ポイント以上向上させる。 残食量を前年度平均より減らすとともに、校内アンケートにおいて「給食を残さず食べている」に肯定的に回答する児童を 90%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「効果的な対話」に重点をおいた授業を行う。	B
指標 全員が年 1 回以上公開授業を行い、内容を検証する。	
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 楽しく運動することを通して、体力の向上に取り組む。	B
指標 運動の機会が増えるように工夫し、持久力・走力の向上に取り組む。	
取組内容③【基本的な方向番号 5 健やかな体の育成】 「食べる力」をはぐくみ、健康の維持増進や体力向上に取り組む。	B
指標 給食委員会での給食の残食調べや校内アンケートにより検証する。児童の実態を把握し、個に応じた取組を行う。	
取組内容④【基本的な方向番号 5 健やかな体の育成】 正しい方法で、手を洗う習慣を身につける。	B
指標 学級での指導とともに、保健委員会が手洗いに関する取り組みを行い、定着させる。1・2 学期に「手洗い強調週間」を設け、手洗いがんばりカードにおいて肯定的な回答の割合を 8 %以上向上させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 指標の通り、すべての教員が「効果的な対話」に重点をおいた公開授業を行い、討議会等を通して内容の検証を行った。その結果、効果的な対話を実現するためには、以下の3つの工夫が必要であるとわかった。一つ目は、全文ワークシート（教材文全文が一枚にまとめられたワークシート）や学習者用端末の共同編集機能の活用による、すべての児童が自分なりの考えをもつための工夫。二つ目は、考えを交流する相手を目的に応じて柔軟に設定するなどの対話環境の工夫。三つ目は、児童の振り返り記述等をもとに学びの様子を見取るとともに、コメントによって価値づけることで次の学びに生かす評価の工夫である。これらの工夫によって、児童は対話を通して学びを広げたり深めたりすることができた。校内で実施した児童アンケートでも、「学級の友だちと話し合う活動を通して、自分の考えをしっかりと持てていくことができますか。」の設問について、肯定的な回答をした児童の割合は91%であり、最も肯定的な「思う」の回答は62%であった。この結果から、多くの児童が対話的な学びの効果を実感できていることがわかった。

これらの成果について、城東区の教員研究発表会で発表した。本校の研究実践を、城東区のすべての小学校に向けて発信することができた。

- ② 工事の影響により、運動する機会を十分に確保することができない状況が続いている。しかし、各学年での体育科学習に加えて、休み時間の運動場と講堂開放の割り当てを作成し、運動の機会を作ったり、運動委員会による「教室での柔軟」・「運動場や講堂でのボール運動」・「蒲生グラウンドでのリレー」の3つの取り組みを行ったりした。限られた環境の中で工夫して児童の運動の機会を増やすための取り組みを行うことができた。

- ③ 「食べる力」を育むことを目指した食育活動は、給食時間の指導を中心に、食育の視点に関連する教科、栄養教諭による食に関する指導などで実施した。また、各種だよりや給食カレンダー、給食委員会の活動などを通して、児童の食への興味・関心を高めるための取り組みを行った。児童アンケート「給食を残さず食べていますか」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は85%であり目標値の90%には届かなかった。しかし、給食の残食率（全体）については、1.4%（R6.5月平均）→0.8%（R7.1月平均）に減少しているので、目標は概ね達成できた。

また、給食室で、食事のあいさつや給食の感想を笑顔で話す児童が本校はとても多い。

今回、全体としては一定の成果が見られたが、児童一人ひとりに焦点をあてると、偏食や時間内に食べられないなど、個別対応の取組の必要性も感じる結果となった。

- ④ 日々の学級指導に加えて、養護教諭による保健指導、保健委員による毎週の清潔調べ・手洗い週間の取組により、少しずつ手洗いの習慣が身についてきた。しかし、水が冷たくなったり、急いでいたりする時は、手洗いが雑になっている児童がいる。2学期は、保健委員による手洗い啓発ポスターの掲示、清掃後の放送、手洗いに関する動画等で手洗いの呼びかけを行った。その結果、1学期に比べると、手洗いがんばりカードにおいて肯定的な回答が7%向上したが、目標の8%には届かなかった。その後、1学期と2学期の結果を比較分析した内容を学級に伝え、学級指導につなげた。その後の清潔調べにおいて、9割以上の児童が石けんで手を洗ったと回答した。

次年度への改善点

- ① 一人一授業について、学年で調整し合い、若手教員がもっと授業見学できるようにする。また、全体交流での発言者の偏りや、より多様な見取りの方法について研究を進めていく。さらに「効果的な対話」を国語科以外の教科学習にも生かしていく。

- ② 今後、工事の影響で運動できる機会がさらに難しくなることが予想されるので、引続き遊びの場所や時間の割当てを決める。また、できる遊びの内容や室内でもできる運動を考える必要がある。(ダンス・ピラティス・ラダートレーニングなど) また、体育科の学習を充実させ、児童が多様な運動に触れ、楽しむことができるようにしていく必要がある。
- ③ これまでの成果を維持しつつ、次年度はさらに児童一人ひとりの「食べる力」を育むことに重点をおいた食育に取り組んでいく。残食量は、児童が視覚的に捉えやすいように、お茶碗何倍分や牛乳何本分と給食室前に掲示するなど工夫していく。また、児童の実態把握や食の課題をつかむための方策、発達段階に応じた指導法についても検討していく。
- ④ 清潔なハンカチを持ってきていない児童が一定数おり、手洗い後にハンカチでふくことができていない。継続した学級指導や保健委員会の取り組みを工夫し、今後も手洗いの大切さや清潔なハンカチの携帯を呼びかけていく。また、忘れ物がある場合は、担任からの声掛けに加え、連絡帳に書くなど、家庭への連絡も行っていく必要がある。

大阪市立成育小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標 (小・中学校) <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。 年次有給休暇 10 日以上取得する教職員の割合を 70% 以上にする。 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「ICT を活用した学習は好きですか」という質問に対し、肯定的な回答をする児童の割合を 80% 以上にする。 ノー残業デーを月に 1 回設定し、教職員同士で声を掛け合って働き方に対する意識を高められるようにする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ICT機器を効果的に用いて、学習者用端末を活用した学習を工夫する。	B
指標 児童アンケートの結果から検証し、児童の実態から ICT を用いた学習の推進を図る。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員同士で声を掛け合って働きやすい環境を整備する。	B
指標 ノー残業デーを月に1回設定し、働き方に対する意識を高められるようにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 校内アンケート「ICT を活用した学習は好きですか。」の質問に対し、肯定的な回答をする児童の割合は90%であった。</p> <p>本年度は効果的な学習者用端末の活用を取組内容に入れ、各学年の実態に応じて取組んだ。Teams を活用したり、協同編集をしたり、SKY MENU を活用したりするなど、学習の深まりを目指して取組むクラスが増えてきた。そのため、ICT を活用した学習を推進しつつある。</p> <p>② 教職員の意識は高まっており、時間外勤務上限基準の達成率（基準1：1か月の時間外勤務時間が45時間以下）は、昨年度より4%増えた。</p> <p>また、年次有給休暇を10日以上取得している教職員の割合は90%であり、目標値を上回った。</p>	

次年度への改善点
① 引き続き、ICT 支援員とともに ICT 教育の充実に取り組む。そのために、ICT 支援員と連携し、ICT を効果的に活用できる実践等を教職員に情報共有できるようにする。 校内の現状として、各学年や学級で様々な実践を計画し、取組を始めている段階のため、今後も ICT を効果的に活用して児童と教職員の経験値を上げていく必要がある。また、その経験値が全校に広がっていくことを目指す。
② ノー残業デーは水曜日に設定しているが、会議や研修の後では早めの退勤が難しいため、行事予定によっては水曜以外にも設定する。 早く退勤しても、家に持ち帰って仕事することもあるので、仕事の割振りや働き方の工夫を考えていく必要がある。